vinetur

ジムビーム、クレアモント蒸留所での蒸留停止を2027年末まで継続

サントリーは需要に合わせた生産調整のためと説明。ケンタッキー州の施設では熟成と瓶詰めを続ける

2026年11月17日（火）



ジムビームは、クレアモントにある主力蒸留所での蒸留を2027年末まで停止する。同社によると、今回の措置は生産量を市場需要に合わせ、資源をより効率的に活用するための幅広い取り組みの一環だという。

Suntory Global Spiritsが11月16日（月）に確認した今回の措置により、同社は同施設での蒸留再開が2028年以降になると見込んでいる。クレアモントはケンタッキー州を代表するバーボン生産拠点の一つで、複数のジムビーム製品を手がける中核施設でもある。そのため、この決定は同社の事業運営だけでなく、米国のウイスキー業界全体にとっても重要な意味を持つ。

同社は、生産停止について、現在の需要に生産能力を合わせることを目的とした企業戦略の一環だと説明した。また、ケンタッキー州の製造に影響を及ぼしている業界の最近の変化やサプライチェーン上の課題にも言及した。蒸留を停止しても、クレアモントの施設全体が閉鎖されるわけではない。同社によると、施設は縮小した規模で稼働を続け、クレアモントでは熟成と瓶詰めも継続する。蒸留はBooker Noe campusで続ける。

今回の停止延長は、ケンタッキー州全域で大規模な拡張が続いた時期を経て、大手バーボンメーカーが事業の調整を進めていることを示している。蒸留各社は、米国内外で高まるプレミアム・アメリカンウイスキーの需要に応えるため、長年にわたって熟成庫や蒸留設備、瓶詰めラインを増強してきた。主力蒸留所をさらに丸一年稼働させないという判断からは、在庫管理やコスト抑制、将来の生産時期の慎重な見極めを重視する姿勢がうかがえる。

影響は一つのブランドにとどまらない。蒸留酒では、バーボンは販売前に熟成が必要なため、生産に関する判断の影響が表れるまでに数年かかることが多い。そのため、蒸留の停止は将来の供給計画や樽の需要、倉庫の利用、包装のスケジュールにも影響し得る。飲料業界、とりわけウイスキーに関わるサプライヤーや販売業者にとって、大規模拠点の停止が長期化すれば、企業ネットワークの他の施設が稼働を続けていても、生産能力の見通しや投資計画、在庫戦略に影響が及ぶ可能性がある。

ジムビームは、停止期間の延長中も市場環境を引き続き評価するとしている。また、移行期間中の混乱を最小限に抑えるため、従業員や地域社会との連絡を続ける方針も示した。

クレアモントの施設は長年、ケンタッキー州のバーボン生産で重要な役割を担ってきた。蒸留が主要な製造業であると同時に観光資源でもある同州では、同施設の動向が注目を集める。熟成と瓶詰めを継続することで、同社はクレアモントでの活動の一部を維持しつつ、蒸留を自社の生産体制内の別の拠点に移す。

同社は11月16日（月）、クレアモントでの事業全体を見直すとは表明しなかった。今回の措置は、拠点からの全面撤退ではなく、現在の事業環境と施設関連の作業に伴う運営上の調整だと説明した。施設の近代化を進める間、停止を続けるという。

ケンタッキー州の蒸留酒業界にとって、今回の発表は、一部の生産者が急速な拡張から、より慎重な事業運営へと移行しつつあることを示す材料となる。これは必ずしも、バーボンの長期的な成長への信頼が弱まっていることを意味しないが、生産者が市場の動きに即応していることを示している。ジムビームほどの規模の企業が主要蒸留所をさらに1年間稼働させないと決めれば、蒸留酒業界の競合他社や受託製造の取引先、サプライヤーからも注視される指標となる。